

消防年報

令和3年版



二宮町消防本部

まえがき

この消防年報は、消防行政の合理的な運営と、消防力の充実強化のための資料とし、あわせて、二宮町の消防現勢と令和2年中及び近年中における火災の実態や、消防、救急そして救助活動などの現状等について、消防関係者はもとより広く町民の方々にも紹介して、消防行政に対するご理解、ご協力をいただくとともに防火思想と救急知識の高揚を図ることを目的として作成したものです。

本町の消防を知っていただく手がかりとして、また、火災や救急、救助そしてその他の災害予防のために少しでもお役にたてれば幸いです。

令和3年8月

二宮町消防本部

町民憲章

昭和53年7月5日制定

わたくしたちは、美しい自然に恵まれた「長寿の里」二宮の町民であることに誇りと責任をもって、より明るく豊かな町づくりのために町民憲章を定めます。

1. 郷土を愛し、自然をいかすきれいな二宮町をつくりましょう。
2. ふれあいを深め、ことばをかけあうさわやかな二宮町をつくりましょう。
3. きまりを守り、良習をはぐくむ住みよい二宮町をつくりましょう。
4. 幸せを願い、健やかな明るい二宮町をつくりましょう。
5. 教養を高め、文化のかおる豊かな二宮町をつくりましょう。

町の鳥

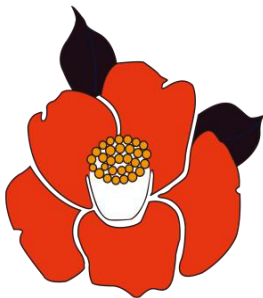
平成23年1月5日制定



『ヤマガラ』
常緑広葉樹林を好み、人懐っこく親しみやすい鳥で町が目指す自然豊かな心のふるさと「里山」のシンボルにふさわしい鳥です。

町の木

昭和48年11月3日制定



『つばき』
古くから武士や高貴な身分の人々にめでられ品種も多くさし木などで簡単にふやせます。町の中にも多く親しみの深い木です。

町の花

昭和48年11月3日制定



『カンナ』
明治の末に渡来した花で、生命力が強く、赤や黄と色もあざやかです。他の花の少なくなった頃に咲き出して町の中を明るくします。

目 次

二宮町の概要

◇概要	1
位置と地勢	1
人口の推移	2
◇消防の予算	3
町予算と消防予算との比較	3
消防予算額の内訳	3
消防費の人口比	3
◇消防のあゆみ	4

消防の現況

◇消防力の現況	9
職員の定員と実員	9
消防勢力	9
◇消防の組織	9
組織図	9
歴代消防長	10
歴代消防団長	11
消防本部の仕事	12
消防署の仕事	12
消防庁舎の概要	12
消防ポンプ車等配置状況	13
消防配置図	14
◇消防職員	15
消防職員年齢	15
消防職員勤続年数	15
◇消防団	16
消防団員の定員と実員数	16
消防団員の内訳とポンプ台数	16
消防団員在籍年数	16
消防団員年齢	17
消防団員の職業構成と就業形態	17
消防団員報酬	17
◇消防職員・団員受章歴	18

火災予防

◇火災予防	19
火災予防条例に基づく届出状況	19
(1)各種届出状況	19
(2)防火対象物使用開始届出状況	20
消防用設備等設置届出状況	21
防火管理者届出状況	22
中高層建築物一覧表	23
用途別の消防同意処理状況	24
◇危険物	25
危険物製造所等の区分別設置件数の推移	25
危険物製造所等における危険物の貯蔵及び取扱量	25
倍数別危険物製造所等の設置状況	26
危険物製造所等に係る申請及び届出の状況	26
◇査察	27
(1)危険物製造所等に対する査察等の実施状況	27
(2)防火対象物に対する査察実施状況	28
(3)消防用設備等に対する完成検査実施状況	29

消防の活動

◇火災概要	30
火災の発生状況(過去10年間)	30
月別火災発生状況	31
◇消防隊の出場状況(火災出動は除く)	32
月別救助出場状況	32
月別警戒出場状況	32
月別救急支援出場状況	32
月別応援出場状況	32
◇救急	33
救急出場件数推移	33
月別救急活動状況	34
曜日別救急発生状況	35
時間別救急発生状況	35
事故種別不搬送件数	36

地区別出場件数	36
覚知別件数	36
所要時間別出場件数と搬送人員	36
傷病程度と年齢別搬送人員	37
応急処置等実施状況	37
応急手当等講習会の実施状況	38
◇通信指令業務	39
通信系統図	39
◇災害出動体制	40
救助出動体制	40
水防(自然災害)出動と体制	41
緊急消防援助隊	41
消防相互応援協定	41
◇消防水利	42
消防水利の現勢調	42
◇気象	43
月別気象状況	43
気象予報等発表状況調(横浜地方気象台発表)	44
過去5年間の気象	44

二宮町の概要

◇ 概要 ◇

二宮町は最初、師長(しなが)国に属する霜見(しほみ)という地名で呼ばれた東国の一山村でしたが、大化の改新(645年)で国、郡、里の制がとり入れられると、相模国に合併されました。

また、その頃、級津彦命(しなつひこのみこと)などをまつる川勾神社が、寒川神社の相模国「一の宮」に対し「二の宮」と称され、地域の鎮守として多くの人々から信仰されました。この頃から霜見も含めてこの地方が「二宮」と呼ばれるようになりました。

江戸時代には、幕府直轄地となって、一色、中里、二宮、山西、川勾の5か村による村制が施行され東海道の宿場として賑わいました。

明治22年に市町村制が施行され、5か村が合併し吾妻村となって、同年東海道本線の開通、明治35年二宮駅開設と発展し、昭和10年11月、町制の施行で二宮町となりました。

昭和40年代からは、気候温暖で山と海に囲まれたなだらかな丘陵が住宅地として人気を集め、住宅の造成も急速に進められ年々人口が増加しました。

これに対応するため、昭和57年には二宮駅舎が改良され、町の玄関が一新するとともに道路、公園、体育館など公共施設の建設が進められてきました。

現在は、公共下水道をはじめとする生活基盤の整備も進めており、よりよい住環境の実現のため新しいまちづくりを推進し、町制施行時は半農半漁でのどかなまちであった二宮町はおだやかな気候、風土があいまって住みよい湘南の住宅地として発展しながら現在に至っています。

▼ 位置と地勢 ▼

二宮町は、神奈川県南西部の東経139度15分18秒北緯35度18分17秒(消防本部)に位置し、東京からの距離は約70kmです。東は大磯町、北は丹沢連峰を背に中井町、西は中村川をはさんで小田原市、南は「相模湾」に面しています。

町の形状は、おおよそ三角形で、中央部を2級河川の葛川が流れています。南部は東西の幅3.3km、北に進むにしたがって狭くなり、南北に3.8km、面積は9.08km²です。

町の東西に東海道本線、東海道新幹線、国道1号、西湘バイパスと小田原厚木道路、南北に県道秦野二宮線が走りそれぞれ町道と連結し交通至便なところです。

気候は温暖で、豊かな自然と新鮮な海の幸・山の幸に加え、純朴な風土と素晴らしい生活環境です。



▼ 人口の推移 ▼

《各年別》

各年4月1日現在

項目 年	世帯数	人 口			1 世 帯 当 り の 人 口	人口密度 (人/km)	人口指数 (平成8年=100)
		計	男	女			
平成 8年	10,169	30,567	15,020	15,547	3.01	3,411	100.0
平成13年	10,941	30,776	15,099	15,677	2.81	3,435	100.7
平成18年	11,028	30,078	14,588	15,490	2.73	3,313	98.4
平成23年	11,475	29,514	14,294	15,220	2.57	3,250	96.6
平成25年	11,477	29,152	14,131	15,021	2.54	3,211	95.4
平成26年	11,514	28,870	13,978	14,892	2.51	3,180	94.4
平成27年	11,538	28,594	13,799	14,795	2.48	3,149	93.5
平成28年	11,600	28,445	13,713	14,732	2.45	3,133	93.1
平成29年	11,275	28,090	13,495	14,595	2.49	3,094	91.9
平成30年	11,347	27,947	13,457	14,490	2.49	3,094	91.9
平成31年・令和元年	11,393	27,803	13,404	14,399	2.44	3,062	91.0
令和 2年	11,461	27,551	13,306	14,245	2.40	3,034	90.1
令和 3年	11,501	27,360	13,188	14,172	2.38	3,013	89.5

《地区別》

各年4月1日現在

地区別 年	平成31年・令和元年		令和2年		令和3年	
	人 口	世帯数	人 口	世帯数	人 口	世帯数
合 計	27,803	11,393	27,551	11,461	27,360	11,501
一 色	858	276	820	266	805	263
百合が丘	3,521	1,587	3,477	1,590	3,441	1,587
中 里	3,299	1,358	3,314	1,385	3,333	1,389
富士見が丘	3,075	1,263	3,039	1,256	3,030	1,263
二 宮	7,780	3,255	7,698	3,275	7,655	3,282
松 根	455	167	454	169	455	174
山 西	6,200	2,495	6,167	2,513	6,083	2,521
川 匂	549	215	556	227	561	236
緑 が 丘	2,066	777	2,026	780	1,997	786

※国勢調査を基礎としています。

◇ 消防の予算 ◇

▼ 町予算と消防予算との比較 ▼

令和3年度の一般会計当初予算額8,219,000千円（前年度対比2.9%増）のうち消防費の当初予算額は402,259千円（前年度対比5.6%減）で、一般会計当初予算額に占める割合は4.9%となっています。

区 分 \ 年	平成31年・令和元年度	令和2年度	令和3年度
一 般 会 計 予 算 額	8,320,000 千円	7,985,000 千円	8,219,000 千円
消 防 予 算 額	424,348 千円	426,219 千円	402,259 千円
比 率	5.1%	5.3%	4.9%

▼ 消防予算額の内訳 ▼

内 訳	金 額	構 成	前年度比
消 防 費	402,259 千円	100.0%	▲ 23,960 千円
常 備 消 防 費	378,391 千円	94.1%	▲ 2,466 千円
非 常 備 消 防 費	23,868 千円	5.9%	▲ 21,494 千円

▼ 消防費の人口比 ▼

当 初 予 算 額	1 世 帯 当 たり	人 口 1 人 当 たり
一 般 会 計 予 算 額	8,219,000 千円	714,634 円
消 防 予 算 額	402,259 千円	34,976 円
		人口1人当たり
		300,402 円
		14,702 円

※国勢調査を基礎とした世帯数及び人口（令和3年4月1日現在 世帯数：11,501世帯 人口：27,360人）

◇ 消防のあゆみ ◇

明治 12年	一色村に消防器具を備えた消防体制が整備される。
明治 17年	一色村に私設消防組が誕生。
明治 25年	中里地区に私設消防組が誕生し、その後二宮、梅沢、山西の各地区に消防組誕生。
明治 37年	公設消防組を設置。(一色、中里、二宮、山西の各消防組)
大正 12年 9月	関東大震災発生。圧死21人、焼死4人、重傷者26人、全焼6戸、全壊406戸、半壊364戸、罹災人員4,716人。
昭和 6年	二宮消防組の手押ポンプを廃し、ガソリンポンプに切替。
昭和 10年 10月	葛川氾濫による水害発生。流失6戸、半壊4戸、床上浸水137戸、床下浸水155戸、道路欠損39ヶ所、橋流失17ヶ所、罹災人員1,639人。
昭和 12年 9月	各地区消防組を統一、二宮消防組となる。
昭和 14年 4月	二宮町警防団となる。(警防団員431名)
昭和 15年 1月	南口駅前大火発生。全焼69戸、半焼4戸、焼失棟数106棟、罹災人員374人。第1分団に消防ポンプ自動車を配備。
昭和 16年 7月	葛川氾濫による水害発生。流失9戸、床上浸水124戸、罹災人員 2,940人。
昭和 23年 4月	消防組織法が施行され、自治体消防として消防団を設置。(4個分団、消防団員258名) 二宮町消防団条例、規則、服務規程等を制定。
昭和 24年 6月	二宮町火災予防条例を制定。
昭和 27年 5月	第1回全国消防大会開かれる。
昭和 29年 4月	第2分団区域を2区域に分割、第2、第3分団とし、従来の第3、第4分団をそれぞれ、第4、第5分団と名称を変えて5個分団に組織替えし、1個分団20名編成となる。(団員数103名)
11月	第3分団消防車庫を新築、同分団に消防ポンプ自動車、第4、第5分団に小型動力ポンプと積載車を配備。
昭和 30年 7月	県営水道が開通、消火栓を設置。
10月	第2分団に消防ポンプ自動車を配備。
昭和 32年 8月	二宮町消防団員等公務災害補償条例・規則を制定。 第7回県消防操法大会(ポンプ車操法の部)に第2分団が出場。
昭和 33年 3月	(財)日本消防協会より表彰、竿頭綬を受ける。
7月	二宮町消防団条例・規則を改定。
昭和 34年 11月	第1分団の消防ポンプ自動車を更新。
昭和 35年 8月	第10回県消防操法大会(ポンプ車操法の部)に第1分団が出場。
昭和 36年 9月	電話自動化により火災専用電話(119番)を役場に設置。
12月	第4、第5分団の小型動力ポンプ更新。
昭和 37年 3月	消防庁長官より表彰、竿頭綬を受ける。
7月	二宮町火災予防条例を改正。
昭和 38年 9月	第13回県消防操法大会(小型動力ポンプの部)に第5分団が出場。

- 昭和 39年 3月 第2分団消防車庫を新築。
二宮町消防団員退職報償金制度が確立され、市町村の支給責任の共済制度を設ける。
二宮町非常勤消防団員に係る退職報償金支給条例を制定。
- 昭和 41年 1月 第4分団消防車庫を新築。
10月 第16回県消防操法大会(小型動力ポンプの部)に第4分団が出場。
12月 第4分団に消防ポンプ自動車(BS-I型)を配備。
- 昭和 42年 1月 第5分団消防車庫を新築。
12月 第5分団に消防ポンプ自動車(BS-I型)を配備。
- 昭和 43年 3月 第1分団消防車庫を新築。
自治体消防発足20周年。
(財)日本消防協会より表彰旗を受け、表彰旗の伝達、披露式典。
4月 二宮町非常勤消防団員退職報償金支給条例施行規則及び二宮町消防団員
服務規程を制定。
8月 二宮町火災予防条例施行規則を制定。
10月 第1回二宮町消防操法大会開催。
- 昭和 44年 10月 第2回二宮町消防操法大会開催。
第19回県消防操法大会(ポンプ車操法の部)に第3分団が出場。
- 昭和 45年 3月 消防庁長官より表彰旗を受け、表彰旗の伝達、披露式典。
12月 第3分団消防ポンプ自動車(水槽付)を更新。
- 昭和 46年 3月 二宮町課等設置条例の一部を改正し従来の総務課消防係より、4月1日
付けをもって消防課の設置を議決。
4月 県消防学校教官山崎勝也氏の派遣を受け、1年間の創設業務と職員の教
養指導を行う。
6月 二宮町消防職員の特殊勤務手当に関する条例の制定。
8月 神奈川県より救急自動車(トヨタMS66VY)の寄贈。
第21回県消防操法大会(ポンプ車操法の部)に第2分団が出場。
9月 二宮町救急業務規則、二宮町消防職員の勤務時間等規則を制定。
救急業務開始(6日)。山崎消防課長以下職員15名。
11月 日本損害保険協会より消防ポンプ自動車の寄贈。(BD-I型)
12月 第2分団消防ポンプ自動車を更新。(BS-I型)
二宮町消防本部及び消防署の設置等に関する条例、二宮町消防賞じゅつ
金条例・規則の制定。
- 昭和 47年 1月 二宮町消防本部組織規則のほか、常備消防として必要な規則、規程を
制定。
消防庁舎竣工。
2月 二宮町消防本部・消防署を設置。(職員20名 定員28名)
消防署水槽付消防ポンプ自動車を配置。(水-I B型)
8月 第22回県消防操法大会(ポンプ車操法の部)に第1分団が出場。
- 昭和 48年 1月 消防署屈折はしご付消防ポンプ自動車を購入。(15m級)

- 昭和 48年 3月 第3分団消防車庫を新築。
 4月 消防職員定数33名となる。
 8月 第23回県消防操法大会に消防署が屈折はしご付消防ポンプ自動車基準操法で出場。
 11月 自治体消防発足25周年記念式を行う。
- 昭和 49年 2月 消防署に台車付小型動力ポンプを配備。
 4月 消防署に緊急工作車(小型動力ポンプ積載)を配備。
 8月 第24回県消防操法大会(ポンプ車操法の部)に第5分団が出場。
 9月 第1分団消防ポンプ自動車を更新。(BS-I型)
- 昭和 50年 9月 消防署車庫増築。
- 昭和 51年 4月 消防本部組織を一部変更、警防係を分割し予防係を新設。
 8月 第26回県消防操法大会(ポンプ車操法の部)に第4分団が出場。
 9月 藤田観光(株)より救急自動車の寄贈。
- 昭和 52年 9月 消防団条例改正審議始まる。
- 昭和 53年 3月 自治体消防発足30周年記念式を行う。
 消防団条例改正、議会で可決。
 4月 消防団員103名から78名に減員。
 8月 第28回県消防操法大会(ポンプ車操法の部)に第3分団が出場し、最優秀賞を獲得する。
 10月 全国消防操法大会に二宮町消防団として第3分団が出場。
- 昭和 54年 7月 消防署指令車更新。
- 昭和 55年 8月 第30回県消防操法大会(ポンプ車操法の部)に第2分団が出場。
- 昭和 56年 2月 二宮町防災備蓄倉庫落成。
 11月 第4分団小型動力ポンプ更新。
- 昭和 57年 2月 (財)日本消防協会特別表彰「まとい」受賞。
 3月 二宮町消防本部・消防署創設10周年及び日本消防協会特別表彰「まとい」受賞の記念式典を行う。
 7月 第1・第2・第3分団小型動力ポンプを配備。
 従来からの第4・第5分団を含み全分団配備する。
 8月 第32回県消防操法大会(ポンプ車操法の部)に第1分団が出場。
 11月 消防署水槽付消防ポンプ自動車更新。
- 昭和 58年 6月 第5分団車庫移転、新築。
 8月 第33回県消防操法大会に消防署が応用操法に出場。
 10月 第4分団消防ポンプ自動車更新。(CD-I型)
- 昭和 59年 8月 第34回県消防操法大会(ポンプ車操法の部)に第5分団が出場。
- 昭和 60年 3月 消防署救急自動車更新。
 10月 第5分団消防ポンプ自動車更新。(CD-I型)
- 昭和 62年 3月 (財)日本消防協会より表彰、竿頭綬を受ける。
 9月 日本損害保険協会より消防ポンプ自動車の寄贈。(BD-I型)
 11月 第3分団消防ポンプ自動車更新。(CD-I型)
- 昭和 63年 7月 消防署指令車更新。

- 昭和 63年 8月 第36回県消防操法大会(ポンプ車操法の部)に第4分団が出場し、優秀賞を獲得する。
(財)日本消防協会より小型動力ポンプ付積載車の寄贈。
- 平成 元年 10月 第2分団消防ポンプ自動車更新。(CD-I型)
- 平成 2年 7月 消防署救急自動車更新。
- 平成 3年 8月 消防署資機材搬送車を購入。
9月 第1分団消防ポンプ自動車更新。(CD-I型)
- 平成 4年 4月 消防職員定数34名となる。防災担当職員1名町部局より派遣。
7月 第38回県消防操法大会(ポンプ車操法の部)に第3分団が出場。
9月 消防署はしご付消防ポンプ自動車購入。(15m級)
- 平成 5年 4月 消防職員定数36名となる。
- 平成 6年 4月 消防職員定数37名となる。
11月 救急救命士の配置を開始。
- 平成 7年 1月 阪神・淡路大震災に救助隊を応援派遣。
11月 消防署高規格救急自動車を購入。
- 平成 8年 4月 消防職員定数38名となる。
7月 第40回県消防操法大会(ポンプ車操法の部)に第2分団が出場。
12月 消防署水槽付消防ポンプ自動車更新。(水-I B型)
- 平成 9年 4月 消防本部組織を一部変更、消防課を新設、1課3係となる。
消防職員を町防災部局への派遣開始。
- 平成 10年 3月 庁舎増設部完成、緊急情報システム更新。(I型)
10月 庁舎既存部耐震補強工事完成。
11月 第4分団消防ポンプ自動車更新。(CD-I型)
12月 (財)日本消防協会へ第4分団旧消防ポンプ自動車を寄贈。
- 平成 11年 9月 第2・第4分団車庫耐震補強工事完了。
- 平成 12年 7月 第42回県消防操法大会(ポンプ車操法の部)に第1分団が出場。
8月 消防団無線を整備。(団本部・分団車両・携帯無線機)
12月 第5分団消防ポンプ自動車更新。(CD-I型)
- 平成 13年 1月 (財)日本消防協会へ第5分団旧消防ポンプ自動車を寄贈。
3月 (社)日本自動車工業会より高規格救急自動車寄贈され、消防署救急自動車の更新と高度救命資器材等を整備。
- 平成 14年 2月 消防署消防ポンプ自動車更新。(CD-I型・災害対応特殊仕様)
- 平成 15年 10月 第3分団消防ポンプ自動車更新。(CD-I型)
12月 (財)日本消防協会へ第3分団旧消防ポンプ自動車を寄贈。
- 平成 16年 7月 第44回県消防操法大会(ポンプ車操法の部)に第5分団が出場。
消防署積載車更新。
- 平成 17年 4月 消防職員定数46名となる。
10月 第2分団消防ポンプ自動車更新。(CD-I型)
12月 (財)日本消防協会へ第2分団旧消防ポンプ自動車を寄贈。
- 平成 18年 4月 平塚市消防本部と職員交流実施、1名派遣。
12月 (財)日本消防協会へ第2分団旧消防ポンプ自動車を寄贈。

- 平成 18年 12月 消防署救助工作車購入。(Ⅱ型)
- 平成 19年 8月 第1分団消防ポンプ自動車更新。(CD－Ⅰ型)
- 平成 20年 2月 (財)日本消防協会より広報車の寄贈。
7月 第46回県消防操法大会(ポンプ車操法の部)に第4分団が出場。
- 平成 21年 2月 第1分団消防車庫を更新。
3月 (社)日本自動車工業会より高規格救急自動車が寄贈され、救急自動車の更新と高度救命資器材等を整備。
4月 組織・機構改革により、班長制の導入。
7月 消防署指令車購入。
- 平成 22年 9月 (財)日本外交協会へ消防署旧はしご付消防ポンプ自動車を寄贈。
- 平成 23年 3月 東日本大震災に伴い、緊急消防援助隊(計2隊・13名)を派遣。
- 平成 24年 1月 消防署水槽付消防ポンプ自動車更新。(水－ⅠB型・国庫補助事業)
2月 (財)日本外交協会へ消防署旧水槽付消防ポンプ自動車を寄贈。
7月 第48回県消防操法大会(ポンプ車操法の部)に第3分団が出場。
- 平成 26年 3月 (財)日本消防協会より表彰第3回目の竿頭授受ける。
第3分団消防車庫を更新。
12月 消防署救急自動車更新。(高規格・国庫補助事業)
- 平成 28年 4月 組織・機構改革により、消防課の2班制(庶務班・予防班)、消防署警備隊の3部制試行導入。
6月 第41回県消防救助技術指導会出場、陸上の部「ほふく救出」第1位。
7月 第50回県消防操法大会(ポンプ車操法の部)に第2分団が出場し、優秀賞を獲得する。
8月 第45回全国消防救助技術大会「ほふく救出」に出場。(愛媛県松山市)
- 平成 29年 3月 消防庁長官より表彰、竿頭授を受ける。
4月 平塚市・大磯町・二宮町共同消防指令センター運用開始。
10月 消防署消防ポンプ自動車更新。(CD－Ⅰ型)
- 平成 31年 4月 組織・機構改革により、消防課の3班制(庶務班・予防班・警防班)、消防署警備隊の2部制導入。
- 令和 元年 9月 消防署救急自動車更新。(高規格・国庫補助事業)
- 令和 2年 3月 総務省消防庁より救助資機材搭載型小型動力ポンプ積載車(3.5t未満)が無償貸与される。
4月 第52回県消防操法大会中止。(第1分団出場予定)
6月 第2分団に救助資機材搭載型小型動力ポンプ積載車(総務省無償貸与)を更新車両として配備する。
第4分団に前第2分団消防ポンプ自動車(CD－Ⅰ型)を更新車両として配備する。
12月 第5分団消防ポンプ自動車更新。(CD－Ⅰ型 3.5t未満)
- 令和 3年 5月 第53回県消防操法大会中止。(第1分団出場予定)
7月 静岡県熱海市土石流災害に伴い、緊急消防援助隊(計2隊・10名)を派遣。

消防の現況

◇ 消防力の現況 ◇

▼ 職員の定員と実員 ▼

(令和3年4月1日現在)

階級 区分	計	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士	事務員 吏員	その他 派遣等
定員	46	階級別定員なし							
実員	46	1	4	8	12	10	9	2	2

※消防職員の実員は派遣等職員は含まない。

▼ 消防勢力 ▼

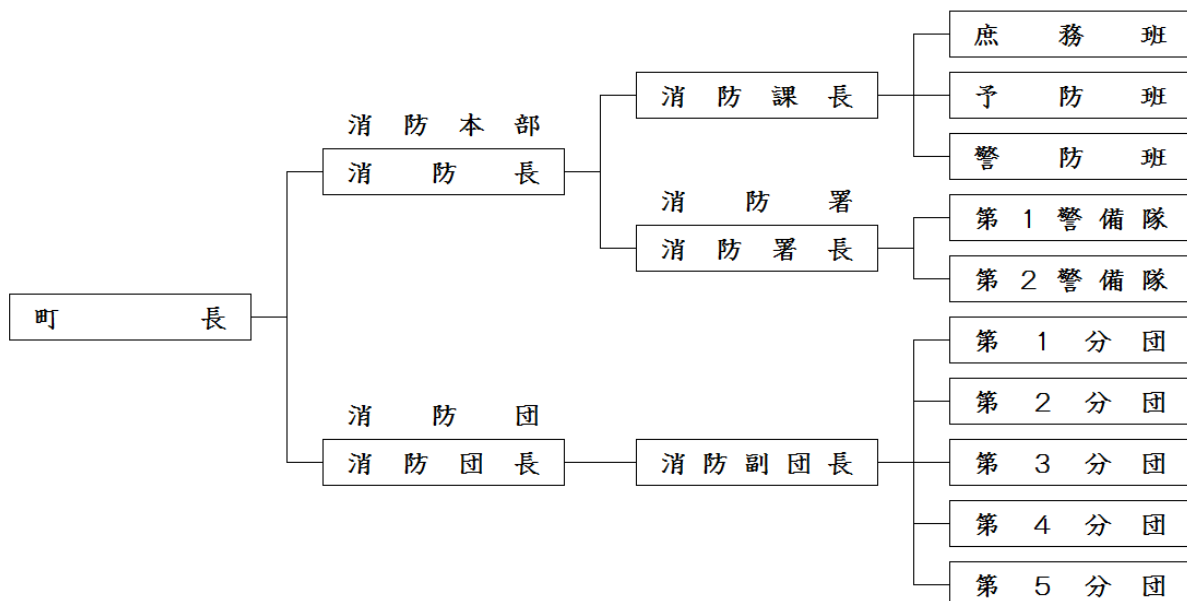
(令和3年4月1日現在)

種別 区分	消防職員			消防団員			消防ポンプ車		
現況	46人			77人			6台		
基準単位	消防職員1名当り			消防団員1名当り			消防ポンプ車1台当り		
区分	面積 (km ²)	人口 (人)	世帯	面積 (km ²)	人口 (人)	世帯	面積 (km ²)	人口 (人)	世帯
算定数値	0.20	594.8	250.0	0.12	355.3	149.4	1.51	4,560.0	1,916.8

◇ 消防の組織 ◇

▼ 組織図 ▼

(令和3年4月1日現在)



▼ 歴代消防長 ▼

代別	氏名	就任年月日	退任年月日	在任期間	摘要
初代	脇 哲	昭和 47年 2月 1日	昭和 49年 11月 30日	2年 10月	助役兼任
2	柳川賢二	〃 49年 12月 1日	〃 50年 1月 31日	2月	町長兼任
3	池田準一	〃 50年 2月 1日	〃 56年 7月 31日	5年 6月	助役兼任
4	渡辺 正太郎	〃 56年 8月 1日	〃 59年 6月 31日	2年 11月	
5	岩本公夫	〃 59年 7月 1日	〃 61年 3月 31日	1年 9月	
6	加藤孝次	〃 61年 4月 1日	平成 2年 3月 31日	4年	
7	橘川吉一	平成 2年 4月 1日	〃 2年 12月 31日	9月	
8	川口喜宏	〃 3年 1月 1日	〃 8年 3月 31日	5年 3月	
9	露木 豊	〃 8年 4月 1日	〃 8年 7月 8日	3月	
10	西山喜介	〃 8年 7月 9日	〃 9年 3月 31日	9月	助役兼任
11	脇 純治	〃 9年 4月 1日	〃 10年 12月 31日	1年 9月	
12	古谷一夫	〃 11年 1月 1日	〃 17年 3月 31日	6年 3月	
13	菊地 元	〃 17年 4月 1日	〃 20年 3月 31日	3年	
14	原 幸男	〃 20年 4月 1日	〃 23年 3月 31日	3年	
15	加藤義則	〃 23年 4月 1日	〃 24年 3月 31日	1年	
16	西山弘和	〃 24年 4月 1日	〃 25年 3月 31日	1年	
17	橘川壽郎	〃 25年 4月 1日	〃 26年 3月 31日	1年	
18	小熊 朗	〃 26年 4月 1日	〃 29年 3月 31日	3年	
19	林 栄一	〃 29年 4月 1日	〃 30年 3月 31日	1年	
20	西山義勝	〃 30年 4月 1日	〃 31年 3月 31日	1年	
21	小椋淳喜	〃 31年 4月 1日		現 在	

▼ 歴代消防団長 ▼

代別	氏名	就任年月日	退任年月日	在任期間
初代	西山 喜八郎	昭和 23年 4月 1日	昭和 25年 3月 31日	2年
2	片岡 彦十郎	〃 25年 4月 1日	〃 27年 3月 31日	2年
3	小沢 新治	〃 27年 4月 1日	〃 31年 3月 31日	4年
4	添田 靖一	〃 31年 4月 1日	〃 33年 3月 31日	2年
5	西山 信次	〃 33年 4月 1日	〃 35年 3月 31日	2年
6	野谷 仲造	〃 35年 4月 1日	〃 37年 3月 31日	2年
7	原 兼太郎	〃 37年 4月 1日	〃 39年 3月 31日	2年
8	柳川 賢二	〃 39年 4月 1日	〃 43年 3月 31日	4年
9	原 久雄	〃 43年 4月 1日	〃 49年 3月 31日	6年
10	渡辺 正太郎	〃 49年 4月 1日	〃 53年 3月 31日	6年
11	西山 昇	〃 53年 4月 1日	〃 57年 3月 31日	4年
12	脇 政雄	〃 57年 4月 1日	〃 61年 3月 31日	4年
13	露木 昭治	〃 61年 4月 1日	平成 4年 3月 31日	6年
14	古木 定男	平成 4年 4月 1日	〃 6年 3月 31日	2年
15	簗島 保男	〃 6年 4月 1日	〃 12年 3月 31日	6年
16	二見 泰弘	〃 12年 4月 1日	〃 16年 3月 31日	4年
17	柳川 駅司	〃 16年 4月 1日	〃 20年 3月 31日	4年
18	杉崎 一夫	〃 20年 4月 1日	〃 28年 3月 31日	8年
19	池田 昌隆	〃 28年 4月 1日	令和 2年 3月 31日	4年
20	渡邊 恒文	令和 2年 4月 1日		現在

▼ 消防本部の仕事 ▼

消防本部は、市町村の消防事務を統括する機関で、人事・予算・消防の企画運営などの事務を行い、次のように各班に分かれて仕事を受け持っています。

《庶務班》

一般文書の収発・保存、予算の編成・執行の調整、例規の制定・改廃、消防業務の広域化、消防職・団員の人事・公務災害・福利厚生、貸与物品の管理、庁舎の維持管理、消防情報及び消防統計に関すること。

《予防班》

火災予防計画・指導、火災予防広報・啓発、防火管理、消防用設備の設置指導、危険物の貯蔵取扱い指導・規制、火気取扱い指導、建築物等の許認可の同意、開発行為等に対する消防施設設置指導、その他、火災予防に関すること。

《警防班》

消防通信、火災警報、消防相互応援協定、消防力の整備指針、消防職・団員の教育訓練、消防団車両・機械器具の管理、災害統計、水防団、メディカルコントロール協議会、応急手当の普及啓発、非常招集などの警防に関すること。

▼ 消防署の仕事 ▼

消防署は、火災の予防・警戒・鎮圧・救急救助などの活動の第一線部隊としての仕事をしており、主な仕事は次のようになっています。

《警備隊》

災害の警戒、防ぎよ活動、傷病者の応急救護を要する者の応急処置及び搬送。火災の原因・損害調査、消防気象観測、警防・水利調査、車両点検整備、各種訓練指導協力その他消防に関すること。

▼ 消防庁舎の概要 ▼

所在地	二宮町中里 711-1 番地		
構造	① 鉄筋コンクリート造2階建	(既存棟)	
	② 鉄骨造2階建	(増築棟)	
建築面積	① 360.24㎡		
	② 345.12㎡	計	705.36 ㎡
延面積	① 676.14㎡		
	② 536.95㎡	計	1,213.09 ㎡
敷地面積	1,394.17㎡		
竣工	① 昭和 47 年 1 月 31 日		
	② 平成 10 年 9 月 30 日	(既存棟耐震改修)	

▼ 消防ポンプ車等配置状況 ▼

(令和3年4月1日現在)

種別	社名 年式	ポンプ 製作所	ポンプ 級別	車両規格			定員	総重量 kg	燃料	総排気量 CC	配置 年月	備考	
				長さ m	幅 m	高さ m							
消防署	水槽付消防ポンプ自動車	日野 H23	長野ポンプ	A2	7.30	2.35	3.40	6	10,000	軽油	6,403	H24.1	緊急消防援助隊登録車両
	消防ポンプ自動車	日野 H29	長野ポンプ	A2	5.99	1.88	2.90	5	6,955	軽油	4,000	H29.10	1,300 L 水槽付
	救急自動車1 (高規格)	トヨタ R元	-	-	5.65	1.89	2.49	7	3,235	ガソリン	2,690	R1.9	緊急消防援助隊登録車両
	救急自動車2 (高規格)	トヨタ H26	-	-	5.65	1.89	2.49	7	3,265	ガソリン	2,690	H26.12	
	救助工作車	日野 H18	-	-	7.48	2.30	3.20	6	9,780	軽油	6,400	H18.12	
	指令車	トヨタ H21	-	-	4.63	1.69	1.86	7	1,885	ガソリン	1,990	H21.7	
	積載車	日産 H16	-	-	4.67	1.69	2.20	6	3,270	ガソリン	1,990	H16.7	
	広報車	ダイハツ H20	-	-	3.39	1.47	1.92	4	1,460	ガソリン	650	H20.2	日本消防協会贈 日寄
	小型動力ポンプ	ラビット	富士ロビン	B3	-	-	-	-	88	ガソリン	635	H12.12	
消防団	本部 団本部車	日産 H29	-	-	3.39	1.47	1.96	4	1,390	ガソリン	650	H29.12	日本消防協会贈 日寄
	第一分団 消防ポンプ車	イスク H19	モタ	A2	5.83	1.88	2.45	9	4,435	軽油	2,990	H19.8	
	第一分団 小型動力ポンプ	ラビット H13	富士ロビン	B3	-	-	-	-	88	ガソリン	635	H13.9	
	第二分団 救助資機材搭載型小型動力ポンプ積載車	日産 R2	シハウラ	B2	5.23	1.80	2.38	6	3,210	ガソリン	1,990	R2.6	総務省 無償貸付
	第二分団 小型動力ポンプ	ラビット H13	富士ロビン	B3	-	-	-	-	88	ガソリン	635	H13.9	
	第三分団 消防ポンプ車	イスク H15	モタ	A2	5.65	1.88	2.45	9	4,085	軽油	4,770	H15.10	
	第三分団 小型動力ポンプ	ラビット H13	富士ロビン	B3	-	-	-	-	88	ガソリン	635	H13.9	
	第四分団 消防ポンプ車	イスク H17	モタ	A2	5.65	1.88	2.45	9	4,075	軽油	4,770	R2.6	前第2分団 車両
	第四分団 小型動力ポンプ	ラビット H11	富士ロビン	B3	-	-	-	-	88	ガソリン	635	H11.9	
	第五分団 消防ポンプ車	トヨタ R2	モタ	A2	5.21	1.85	2.28	6	3,490	軽油	2,980	R2.11	
第五分団 小型動力ポンプ	ラビット H11	富士ロビン	B3	-	-	-	-	88	ガソリン	635	H11.9		

▼ 消防配置図 ▼



名称等	区域	備考(通称地区名)	
消防本部	消防署	全 域	
消防団	団本部	全 域	
	第1分団	大字山西及び川勾区域	梅沢、越地、茶屋、釜野、川勾
	第2分団	大字二宮の一部区域	上町、中町、下町
	第3分団	大字二宮の一部及び富士見が丘一丁目、富士見が丘二丁目、富士見が丘三丁目、松根区域	元町北、元町南、富士見が丘1、富士見が丘2、富士見が丘3、松根
	第4分団	大字中里及び中里二丁目、百合が丘一丁目区域	中里、百合が丘1
第5分団	大字一色及び緑が丘一丁目、緑が丘二丁目、緑が丘三丁目、百合が丘二丁目、百合が丘三丁目区域	一色、緑が丘、百合が丘2、百合が丘3	

◇ 消防職員 ◇

▼ 消防職員の年齢 ▼

(令和3年4月1日現在)

階級 区分	計	消 防 司令長	消 防 司 令	消 防 司令補	消 防 士 長	消 防 副士長	消防士	事 務 吏 員
計	46	1	4	8	12	10	9	2
18～20才	2						2	
21～25才	8					1	7	
26～30才	8				1	7		
31～35才	9				5	2		2
36～40才	8			2	6			
41～45才	1			1				
46～50才	6		2	4				
51～55才	3		2	1				
56～60才	1	1						
平均年齢	38.5	56.0	49.5	45.0	35.1	28.7	22.2	33.0

▼ 消防職員の勤続年数 ▼

(令和3年4月1日現在)

階級 区分	計	消 防 司令長	消 防 司 令	消 防 司令補	消 防 士 長	消 防 副士長	消防士	事 務 吏 員
計	46	1	4	8	12	10	9	2
0～4年	15	1				3	9	2
5～9年	9				2	7		
10～14年	8				8			
15～19年	5			3	2			
20～24年	1			1				
25～29年	5		2	3				
30～34年	3		2	1				
35年以上	0							
平均年数	10.9	2.0	29.8	23.3	12.5	5.9	1.8	1.0

◇ 消防団 ◇

▼ 消防団員の定員と実員数 ▼

(令和3年4月1日現在)

消防団数	分団数	階級 人員	計	団 長	副団長	分団長	副分団長	班 長	団 員
		定 員							
1	5	定 員	78	1	2	5	5	30	35
		実 員	77	1	2	5	5	30	34

▼ 消防団員の内訳とポンプ台数 ▼

(令和3年4月1日現在)

階級・ ポンプ 所属	消 防 団 員 数							ポ ン プ 台 数		
	計	団 長	副団長	分団長	副分団長	班 長	団 員	計	消防ポンプ 自 動 車	小型動力 ホ ン プ
計	77	1	2	5	5	30	34	10	4	6
本 部	3	1	2					0		
第 1 分 団	15			1	1	6	7	2	1	1
第 2 分 団	15			1	1	6	7	2		2
第 3 分 団	15			1	1	6	7	2	1	1
第 4 分 団	14			1	1	6	6	2	1	1
第 5 分 団	15			1	1	6	7	2	1	1

▼ 消防団員在籍年数 ▼

(令和3年4月1日現在)

階 級 区 分	計	団 長	副団長	分団長	副分団長	班 長	団 員
合 計	77	1	2	5	5	30	34
1 年 未 満	8					1	7
1 年 ～ 4 年	29					11	18
5 年 ～ 9 年	27			1	3	15	8
10 年 ～ 19 年	12		2	4	2	3	1
20 年 ～ 29 年	1	1					
平均年数	7.1	25.0	13.0	11.4	9.4	6.1	2.9

▼ 消防団員年齢 ▼

(令和3年4月1日現在)

階級 区分	計	団長	副団長	分団長	副分団長	班長	団員
計	77	1	2	5	5	30	34
21才～25才	3					1	2
26才～30才	4					2	2
31才～35才	9					1	8
36才～40才	15				1	6	8
41才～45才	20				2	10	8
46才～50才	15			3	1	6	5
51才～55才	7		2	2		2	1
56才以上	4	1			1	2	
平均年齢	42.1	59.0	53.0	49.0	45.4	43.0	38.7

▼ 消防団員の職業構成と就業形態 ▼

(令和3年4月1日現在)

計	職業構成												計	就業形態							
	農 業	林 業	漁 業	鉱 業	建 設 業	製 造 業	熱電 供給 水道 業	飲 食 小 売 業	卸 売 保 險 業	金 融 業	不 動 産 業	サ ー ビ ス 業		公 務 員 な い に も 分 類 の 他	被 用 者	役 員	被 用 者 の あ る 業 主	被 用 者 の な い 業 主	家 族 従 業 者	家 庭 内 職 者	そ の 他
77					9	17	3	7	1	1	12	7	20	77	58	5		2	6		6

▼ 消防団員報酬 ▼

(令和3年4月1日現在)

階級 区分	団長	副団長	分団長	副分団長	班長	団員
年額	135,000円	90,000円	49,000円	45,000円	35,000円	34,000円
警戒・訓練等	一律 1,500円					
災害出動	一律 3,000円					

◇ 消防職員・団員受章歴 ◇

《団体》

受章年度	表彰区分
昭和 33 年 度	日 本 消 防 協 会 竿 頭 綬
昭 和 37 年 度	消 防 庁 竿 頭 綬
昭 和 43 年 度	日 本 消 防 協 会 表 彰 旗
昭 和 45 年 度	消 防 庁 表 彰 旗
昭 和 53 年 度	神 奈 川 県 消 防 操 法 大 会 最 優 秀 賞
昭 和 57 年 度	日 本 消 防 協 会 特 別 表 彰「まとい」
昭 和 62 年 度	日 本 消 防 協 会 竿 頭 綬
平 成 17 年 度	神 奈 川 県 消 防 協 会 竿 頭 綬
平 成 25 年 度	日 本 消 防 協 会 竿 頭 綬
平 成 28 年 度	消 防 庁 竿 頭 綬

《消防職員》

受章者	表彰区分	受章日
宮 戸 康 夫	瑞 宝 単 光 章	平 成 26 年 4 月 29 日
小 熊 朗	救 急 功 労 者 表 彰	平 成 26 年 9 月 9 日
松 木 正 則	瑞 宝 単 光 章	平 成 28 年 4 月 29 日
加 藤 義 則	瑞 宝 双 光 章	令 和 元 年 11 月 3 日
西 山 弘 和	瑞 宝 双 光 章	令 和 2 年 4 月 29 日
橘 川 壽 郎	瑞 宝 双 光 章	令 和 3 年 4 月 29 日

《消防団員》

受章者	表彰区分	受章日
原 久 雄	木 杯	昭 和 62 年 11 月 3 日
露 木 昭 治	勲 七 等 瑞 宝 章	平 成 7 年 11 月 7 日
西 山 昇	勲 六 等 瑞 宝 章	平 成 10 年 4 月 29 日
柳 川 駅 司	消 防 庁 長 官	平 成 18 年 3 月 3 日
杉 崎 一 夫	消 防 庁 長 官	平 成 28 年 3 月 9 日

火災予防

◇ 火災予防 ◇

▼ 火災予防条例に基づく届出状況 ▼

(1) 各種届出状況

各種届出 \ 年	平成30年	平成31年・令和元年	令和2年
合計	88	97	64
炉 設 備			
厨 房 設 備			
温 風 暖 房 機 設 備			
ボ イ ラ ー 設 備	1		
給 湯 湯 沸 設 備		1	
乾 燥 設 備			1
サ ウ ナ 設 備			
ヒートポンプ冷暖房機設備			
火花を生ずる設備			
放電加工機設備			
変 電 設 備	1	6	2
発 電 設 備			1
蓄 電 池 設 備	1	1	3
ネオン管灯設備			
火災と紛らわしい行為等	50	52	37
煙火の打上げ、仕掛け等	5	9	3
催物の開催等	1	3	
指定洞道等			
屋外催しに伴う露店の開設	28	24	16
少量危険物貯蔵・取扱	1	1	1
指定可燃物貯蔵・取扱			

(2) 防火対象物使用開始届出状況

防火対象物の区分		年	平成30年	平成31年・令和元年	令和2年
		合計	7	15	6
1項	イ	映画館			
	ロ	公会堂・集会場			
2項	イ	キャバレー等			
	ロ	遊技場等			
	ハ	性風俗関連等			
	ニ	カラオケボックス等 個室型店舗			
3項	イ	料理店等			
	ロ	飲食店等	1	1	
4項		店舗・マーケット	2	1	
5項	イ	旅館・ホテル		1	
	ロ	共同住宅		4	
6項	イ	病院・診療所			
	ロ	福祉施設等		1	
	ハ	福祉施設等	1	4	1
	ニ	幼稚園等			
7項		学校			
8項		図書館等			
9項	イ	蒸気・熱気浴場			
	ロ	イ以外の公衆浴場			
10項		駅舎			
11項		神社等			
12項	イ	工場・作業場	1	1	
	ロ	映画・スタジオ等			
13項	イ	駐車場等			
	ロ	飛行機の格納庫等			
14項		倉庫等	1		1
15項		事務所等	1	2	1
16項	イ	特定複合用途			2
	ロ	複合用途			1
16項の2		地下街			
16項の3		16項2以外の地階			
17項		重要文化財等			
18項		アーケード			

※6項ロに関しては、主として要介護状態にある者を入居させるもの。

※6項ハは、6項ロ以外の福祉施設

▼ 消防用設備等設置届出状況 ▼

防火対象物の区分		年	平成30年	平成31年・令和元年	令和2年
		合 計	17	30	20
1項	イ	映 画 館			
	ロ	公 会 堂 ・ 集 会 場	2		
2項	イ	キ ャ バ レ ー 等			
	ロ	遊 技 場 等			
	ハ	性 風 俗 関 連 等			
	ニ	カ ラ オ ケ ボ ッ ク ス 等 個 室 型 店 舗			
3項	イ	料 理 店 等			
	ロ	飲 食 店 等			1
4項		店 舗 ・ マ ー ケ ッ ト	3	7	1
5項	イ	旅 館 ・ ホ テ ル		1	
	ロ	共 同 住 宅	1	6	
6項	イ	病 院 ・ 診 療 所			
	ロ	福 祉 施 設 等	3	2	
	ハ	福 祉 施 設 等	2	12	7
	ニ	幼 稚 園 等	1		
7項		学 校	2	1	2
8項		図 書 館 等			
9項	イ	蒸 気 ・ 熱 気 浴 場			
	ロ	イ 以 外 の 公 衆 浴 場			
10項		駅 舎			
11項		神 社 等			
12項	イ	工 場 ・ 作 業 場	1		1
	ロ	映 画 ・ ス タ ジ オ 等			
13項	イ	駐 車 場 等			
	ロ	飛 行 機 の 格 納 庫 等			
14項		倉 庫 等	1		
15項		事 務 所 等	1		3
16項	イ	特 定 複 合 用 途		1	5
	ロ	複 合 用 途			
16項の2		地 下 街			
16項の3		16 項 2 以 外 の 地 階			
17項		重 要 文 化 財 等			
18項		ア ー ケ ー ド			

※6項ロは、主として要介護状態にある者を入居させる福祉施設

※6項ハは、6項ロ以外の福祉施設

▼ 防火管理者届出状況 ▼

(令和3年4月1日現在)

防火対象物の区分		項目	消防法第17条 対象物	消防法第8条 対象物	防火管理者 届出済対象物
合計			716	193	161
1項	イ	映画館			
	ロ	公会堂・集会場	40	37	18
2項	イ	キャバレー等			
	ロ	遊技場等			
	ハ	性風俗関連等			
	ニ	カラオケボックス等 個室型店舗			
3項	イ	料理店等			
	ロ	飲食店等	23	16	13
4項		店舗・マーケット	38	15	12
5項	イ	旅館・ホテル	2	1	1
	ロ	共同住宅	295	40	39
6項	イ	病院・診療所	25	1	1
	ロ	福祉施設等	6	6	6
	ハ	福祉施設等	29	19	19
	ニ	幼稚園等	5	5	5
7項		学校	8	7	7
8項		図書館等	1	1	1
9項	イ	蒸気・熱気浴場			
	ロ	イ以外の公衆浴場			
10項		駅舎			
11項		神社等	20	4	3
12項	イ	工場・作業場	43	1	1
	ロ	映画・スタジオ等			
13項	イ	駐車場等			
	ロ	飛行機の格納庫等			
14項		倉庫等	8		
15項		事務所等	62	18	17
16項	イ	特定複合用途	72	21	17
	ロ	複合用途	39	1	1
16項の2		地下街			
16項の3		16項2以外の地階			
17項		重要文化財等			
18項		アーケード			

※6項ロは、主として要介護状態にある者を入居させる福祉施設

※6項ハは、6項ロ以外の福祉施設

▼ 中高層建築物一覧表 ▼

(令和3年4月1日現在)

防火対象物の区分		階数	3階・4階	5階	6階	7階	8階
		合計	113	30	3		1
1項	イ	映画館					
	ロ	公会堂・集会場	3				
2項	イ	キャバレー等					
	ロ	遊技場等					
	ハ	性風俗関連等					
	ニ	カラオケボックス等 個室型店舗					
3項	イ	料理店等					
	ロ	飲食店等					
4項		店舗・マーケット	3				
5項	イ	旅館・ホテル					
	ロ	共同住宅	23	28	3		1
6項	イ	病院・診療所	3				
	ロ	福祉施設等	3				
	ハ	福祉施設等	6				
	ニ	幼稚園等					
7項		学校	6	1			
8項		図書館等					
9項	イ	蒸気・熱気浴場					
	ロ	イ以外の公衆浴場					
10項		駅舎					
11項		神社等					
12項	イ	工場・作業場	1				
	ロ	映画・スタジオ等					
13項	イ	駐車場等					
	ロ	飛行機の格納庫等					
14項		倉庫等	2				
15項		事務所等	17				
16項	イ	特定複合用途	32	1			
	ロ	複合用途	14				
17項		重要文化財等					

※6項ロは、主として要介護状態にある者を入居させる福祉施設

※6項ハは、6項ロ以外の福祉施設

▼ 用途別の消防同意処理状況 ▼

(令和3年4月1日現在)

用途別		年	平成30年度		平成31年・令和元年度		令和2年度	
			件数	面積㎡	件数	面積㎡	件数	面積㎡
合 計			110	13,535.66	73	9,133.81	84	9,806.17
1項	イ	映 画 館						
	ロ	公 会 堂 ・ 集 会 場						
2項	イ	キ ャ バ レ ー 等						
	ロ	遊 技 場 等						
	ハ	性 風 俗 関 連 等						
	ニ	カ ラ オ ケ ボ ッ ク ス 等 個 室 型 店 舗						
3項	イ	料 理 店 等						
	ロ	飲 食 店 等						
4項		店 舗 ・ マ ー ケ ッ ト	1	51.60	1	80.14		
5項	イ	旅 館 ・ ホ テ ル						
	ロ	共 同 住 宅	1	289.22	1	531.17		
6項	イ	病 院 ・ 診 療 所						
	ロ	福 祉 施 設 等						
	ハ	福 祉 施 設 等	2	1,466.79	2	598.28		
	ニ	幼 稚 園 等						
7項		学 校						
8項		図 書 館 等						
9項	イ	蒸 気 ・ 熱 気 浴 場						
	ロ	イ 以 外 の 公 衆 浴 場						
10項		駅 舎						
11項		神 社 等						
12項	イ	工 場 ・ 作 業 場						
	ロ	映 画 ・ ス タ ジ オ 等						
13項	イ	駐 車 場 等						
	ロ	飛 行 機 の 格 納 庫 等						
14項		倉 庫 等						
15項		事 務 所 等			1	172.91		
16項	イ	特 定 複 合 用 途			1	111.51		
	ロ	複 合 用 途						
17項		重 要 文 化 財 等						
18項		ア ー ケ ー ド						
専 用 住 宅			106	11,728.05	67	7,639.80	84	9,806.17

◇ 危険物 ◇

▼ 危険物製造所等の区別設置件数の推移 ▼

(令和3年4月1日現在)

区 分		年	平成30年度	平成31年・令和元年度	令和2年度
		数			
総		数	14	14	14
製		造 所			
貯蔵所	屋内貯蔵所		1	1	1
	屋外タンク貯蔵所		1	1	1
	屋内タンク貯蔵所				
	地下タンク貯蔵所		7	7	7
	簡易タンク貯蔵所				
	移動タンク貯蔵所		1	1	1
	屋外貯蔵所				
取扱所	給油取扱所	営業	1	1	1
		自家			
	販売取扱所	第1種			
		第2種			
	一般取扱所		3	3	3

▼ 危険物製造所等における危険物の貯蔵及び取扱量 ▼

(令和3年4月1日現在)

区 分		施 設 数							
		合計 (件)	第1類 (L)	第2類 (L)	第3類 (L)	第4類 (L)	第5類 (L)	第6類 (L)	混在 (L)
製造所等の別									
合 計		14				247,460			
製		造 所							
貯蔵所	屋内貯蔵所		1			2,860			
	屋外タンク貯蔵所		1			1,900			
	屋内タンク貯蔵所								
	地下タンク貯蔵所		7			132,700			
	簡易タンク貯蔵所								
	移動タンク貯蔵所		1			1,940			
	屋外貯蔵所								
取扱所	給油取扱所	営業	1			91,800			
		自家							
	販売取扱所	第1種							
		第2種							
	一般取扱所		3			16,260			

▼ 倍数別危険物製造所等の設置状況 ▼

(令和3年4月1日現在)

製造所等の別		合計	五倍以下	五倍を超え 十倍以下	十倍を超え 五十倍以下	五十倍を超え 百倍以下	百倍を超え 百五十倍以下	百五十倍を超え 二百倍以下	二百倍を超え 五千倍以下
合計		14	10	1	1	1			1
製造所									
貯蔵所	屋内貯蔵所	1	1						
	屋外タンク貯蔵所	1	1						
	屋内タンク貯蔵所								
	地下タンク貯蔵所	7	5		1	1			
	簡易タンク貯蔵所								
	移動タンク貯蔵所	1	1						
	屋外貯蔵所								
取扱所	給油取扱所	営業	1						1
		自家							
	販売取扱所	第1種							
		第2種							
	一般取扱所	3	2	1					

▼ 危険物製造所等に係る申請及び届出の状況 ▼

(令和2年中)

製造所等の別		区分		許可		完成		水張検査	廃止届	仮使用	仮貯蔵・取扱
		設置	変更	設置	変更						
合計		0	0	0	0	4	0	0	0	0	
製造所						4					
貯蔵所	屋内貯蔵所										
	屋外タンク貯蔵所										
	屋内タンク貯蔵所										
	地下タンク貯蔵所										
	簡易タンク貯蔵所										
	移動タンク貯蔵所										
	屋外貯蔵所										
取扱所	給油取扱所	営業									
		自家									
	販売取扱所	第1種									
		第2種									
	一般取扱所										

◇ 査 察 ◇

(1) 危険物製造所等に対する査察等の実施状況

(令和2年度)

区分 \ 実施件数	製造所等の総数	査察実施数	完成検査実施数	指件 導数	是正件数
合計	14	13	0	5	5
製造所					
屋内貯蔵所	1	1		1	1
屋外タンク貯蔵所	1	1		1	1
屋内タンク貯蔵所					
地下タンク貯蔵所	7	7		2	2
簡易タンク貯蔵所					
移動タンク貯蔵所	1				
屋外貯蔵所					
給油取扱所	1	1			
第1種販売取扱所					
第2種販売取扱所					
一般取扱所	3	3		1	1

(2) 防火対象物に対する査察実施状況

(令和2年度)

防火対象物の区分		項目	防火対象物数	査察実施数	指導件数	是正件数
合計			716	45	35	11
1項	イ	映画館				
	ロ	公会堂・集会場	40	1	1	1
2項	イ	キャバレー等				
	ロ	遊技場等				
	ハ	性風俗関連等				
	ニ	カラオケボックス等 個室型店舗				
3項	イ	料理店等				
	ロ	飲食店等	23	1	1	1
4項		店舗・マーケット	38	5	3	1
5項	イ	旅館・ホテル	2	1		
	ロ	共同住宅	295	26	23	3
6項	イ	病院・診療所	25	1		
	ロ	福祉施設等	6			
	ハ	福祉施設等	29	3	1	1
	ニ	幼稚園等	5	1	1	1
7項		学校	8	2	2	1
8項		図書館等	1			
9項	イ	蒸気・熱気浴場				
	ロ	イ以外の公衆浴場				
10項		駅舎				
11項		神社等	20			
12項	イ	工場・作業場	43			
	ロ	映画・スタジオ等				
13項	イ	駐車場等				
	ロ	飛行機の格納庫等				
14項		倉庫等	8			
15項		事務所等	62	1	1	
16項	イ	特定複合用途	72	2	1	1
	ロ	複合用途	39	1	1	1

※ 6項ロは、主として要介護状態にある者を入居させる福祉施設

※ 6項ハは、6項ロ以外の福祉施設

(3) 消防用設備等に対する完成検査実施状況

(令和2年中)

消防用設備等	項目	設置届等	検査
合計		20	8
消火器		2	1
屋内消火栓			
スプリンクラー設備		2	1
水噴霧消火設備			
屋外消火栓設備			
自動火災報知設備		8	1
ガス漏れ火災警報器			
漏電火災警報器			
消防機関へ通報する 火災報知設備		1	1
非常警報設備		1	1
避難器具		2	1
誘導灯		4	2
連結散水栓設備			
連結送水管設備			
非常電源			

消防の活動

◇ 火災概要 ◇

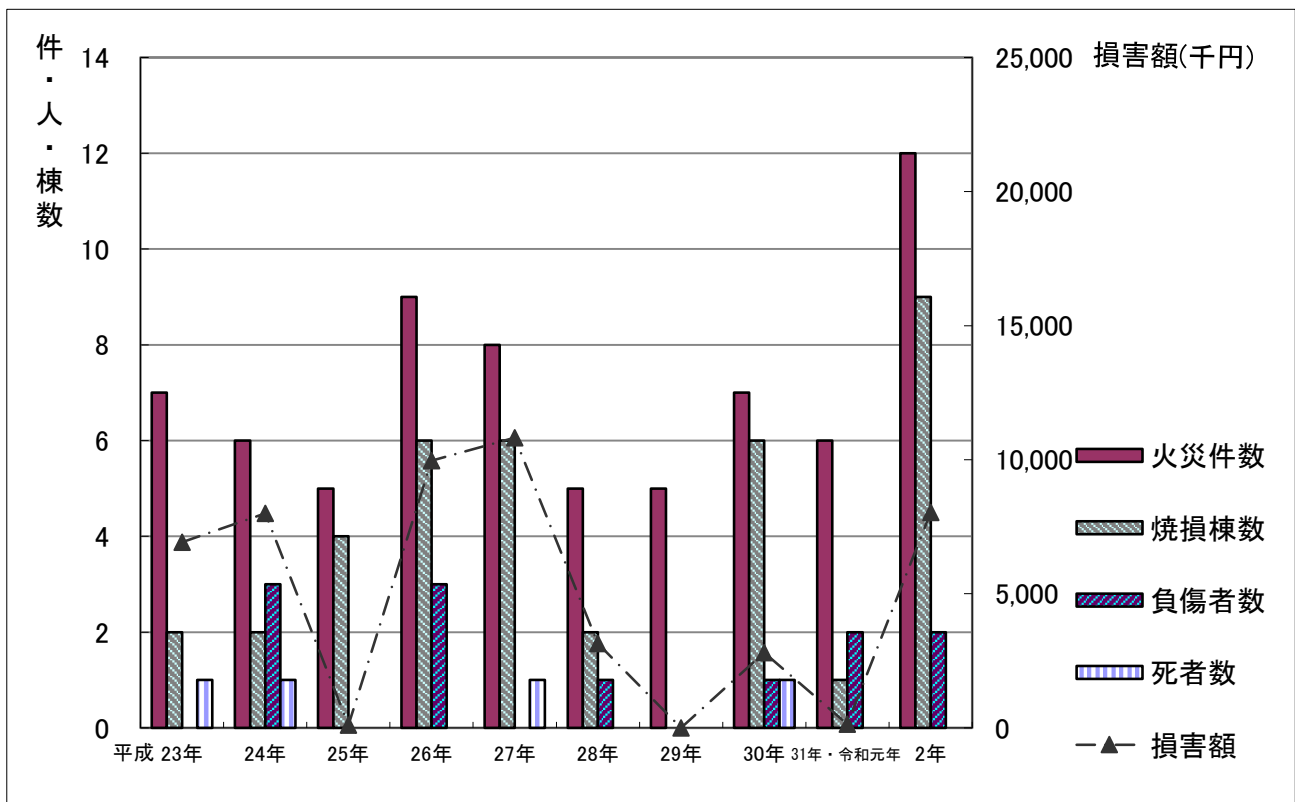
▼火災の発生状況（過去10年間）▼

令和2年中の火災発生件数は12件で、建物火災が8件、車両火災が2件、その他の火災が2件でした。

出火原因としては、たばこの不始末や車両の整備不良、電気器具の不適切な取扱い等、不注意によるものが多く、火災予防思想の更なる普及に努めていく必要があります。

区分 年	火災種別							死 者	負 傷 者	り 災 世 帯	り 災 人 員	損 害 額 合 計 (千円)	損 害 額		焼 損 棟 数	建 物 焼 損 面 積 (㎡)
	合	建	林	車	船	航	そ						建 物 火 災 (千円)	建 の 物 火 災 以 外 災 (千円)		
	計	物	野	両	舶	機	他									
平成 23年	7	2		3			2	1	2	4	6,925	6,630	295	2	106	
〃 24年	6	2		2			2	1	3	2	7,996	5,478	2,518	2	216	
〃 25年	5	4					1		3	5	101	101		4	4	
〃 26年	9	6	1				2	3	5	12	9,966	9,955	11	6	173	
〃 27年	8	4		1			3	1	5	7	10,822	10,816	6	6	144	
〃 28年	5	2		2			1	1	2	2	3,147	1,835	1,312	2	37	
〃 29年	5			1			4				2		2			
〃 30年	7	3					4	1	1	6	2,800	2,800		6	155.3	
31年・令和元年	6	1	1	1			3	2	1	5	134	67	67	1	0.03	
令和 2年	12	8		2			2	2	7	14	8,035	7,930	105	9	195	

※建物焼損面積は、「焼損床面積」と「焼損表面積」を合算した数値



▼月別火災発生状況▼

(令和2年中)

区分		月別	計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
火災種別	建物		8	3	1	1			1				1		1	
	林野															
	車両		2						1		1					
	その他		2								1				1	
原因大別	失火		8	2	1	1			1				1		2	
	放火・疑い		1								1					
	不明															
	その他		3	1					1		1					
死傷者	死者															
	負傷者		2	1									1			
建物	焼損棟	火元														
		全焼	2		1	1										
		半焼	1						1							
		部分焼	2	2												
	棟数	ぼや	3	1										1		1
		類焼棟	全焼													
			半焼													
			部分焼													
	火災	り災世帯	ぼや	1		1										
			全損	2		1				1						
半損																
小損			5	3	1								1			
計		7	3	2					1				1			
り災者数	14	5	3					5				1				
災	焼損面積	全焼	136.00		101.00	35.00										
		半焼	38.00						38.00							
		部分焼	21.00	21.00												
		ぼや														
	(㎡) 計	195.00	21.00	101.00	35.00				38.00							
林野焼損面積(㎡)																
車両(台数)		2							1		1					
その他焼損面積(㎡)		585.00													585.00	
損害見積額	家屋	建物	2,405	441	414	30			1,520							
		収容物	5,525	121	2,625	320			2,442						17	
	林野															
	車両	104							100		4					
	その他	1													1	
計(千円)		8,035	562	3,039	350				4,062		4				18	

◇ 消防隊の出場状況（火災出動は除く）◇

▼月別救助出場状況▼

(令和2年中)

区分		月別	計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
救助 出場	交通事故(件)		2			1								1	
	救助人員(人)														
	建物等による事故(件)														
	救助人員(人)														
	機械による事故(件)														
	救助人員(人)														
	その他(件)		4					1	1	1		1			
	救助人員(人)		2					1				1			
	件数合計(件)		6			1		1	1	1		1			1
人員合計(人)		2					1				1				
傷病者 程度	死亡														
	重症														
	中等症														
	軽症		1					1							
	不搬送		1									1			
	合計		2					1				1			

▼月別警戒出場状況▼

(令和2年中)

区分		月別	計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
種別	火災警戒		10	4		1		1	1	2			1		
	危険排除		3		1					1		1			
	D r . へリ														
	その他		45	10	11		1	1	3	4	3	3	2	2	5
	合計		58	14	12	1	1	2	4	7	3	4	3	2	5

※1 誤報も火災警戒に含む

※2 その他には風水害に係る出動も含む

▼月別救急支援出場状況▼

(令和2年中)

区分		月別	計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
種別	交通事故		15	0	1	3	1	1	1	0	4	1	2	1	0
	救命対応		58	8	1	4	7	8	2	4	4	2	9	4	5
	その他		125	22	14	10	5	7	8	14	9	10	7	2	17
	合計		198	30	16	17	13	16	11	18	17	13	18	7	22

▼月別応援出場状況▼

(令和2年中)

区分		月別	計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
大磯管内	火災		4	1	1							1	1		
	救急・救急支援		20	2	3	1	3	1	1	3	3	2	1		
	救助														
小田原管内	火災		1			1									
	救急・救急支援		2		1						1				
	救助														

◇ 救 急 ◇

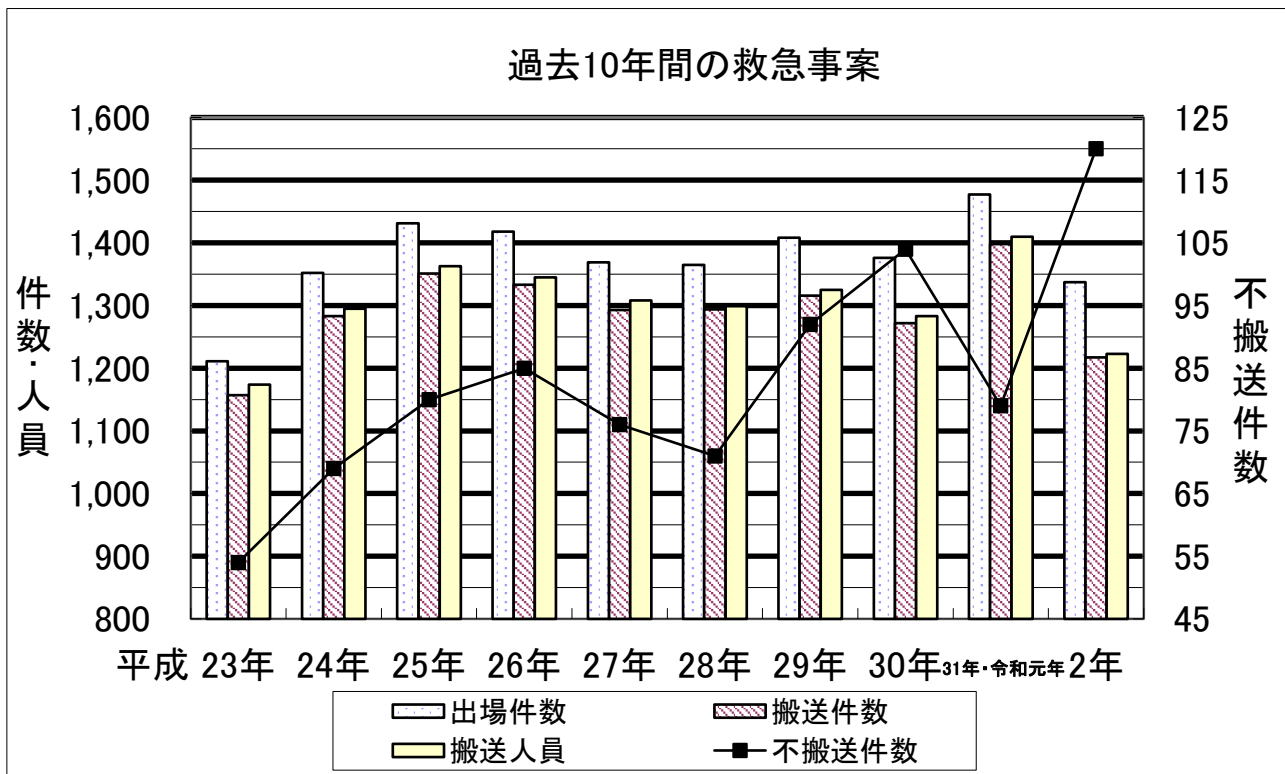
▼救急出場件数推移▼

令和2年中における救急業務の実施状況については、出動件数が1,337件で1日平均約3.7件、搬送人員は1,217人でした。昨年中と比較すると出動件数で140件、搬送人員で193人減少しています。また65歳以上の方の割合は約70.6%を占めています。

救急要請が重なり、2台目の救急車が出動した件数は、187件で、2台とも出動中に救急要請があり、近隣の消防本部に応援出動を要請した件数は17件でした。

搬送した傷病者の初診時傷病程度の内訳は軽症37%、中等症52%、重症9%、死亡が2%でした。

年	区分	出場件数	搬送件数	搬送人員	不搬送件数	一日平均
平成	23年	1,211	1,157	1,174	54	3.3
"	24年	1,352	1,283	1,295	69	3.7
"	25年	1,431	1,351	1,363	80	3.9
"	26年	1,418	1,333	1,345	85	3.9
"	27年	1,369	1,293	1,308	76	3.8
"	28年	1,365	1,294	1,299	71	3.7
"	29年	1,408	1,316	1,325	92	3.9
"	30年	1,376	1,272	1,283	104	3.8
平成31年・令和元年		1,477	1,398	1,410	79	4.0
令和	2年	1,337	1,217	1,223	120	3.7



▼月別救急活動状況▼

(令和2年中)

事故種別 区分		合 計	一 日 平 均	火 災 事 故	自 然 災 害	水 難 事 故	交 通 事 故	労 働 災 害	運 動 競 技	一 般 負 傷	加 害 事 故	自 損 行 為	急 病	そ の 他
合計	出場件数	1,337	3.7	12		1	70	8	6	243	4	13	922	58
	搬送人員	1,223	3.4	1			73	7	6	236	3	11	846	43
	不搬送件数	120	0.3	11		1	2	1		8	1	2	78	15
1月	出場件数	139	4.5				7			26	1	2	95	8
	搬送人員	134	4.3				7			25		2	92	8
	不搬送件数	6	0.2							2	1		3	
2月	出場件数	113	4.0				6			18			83	6
	搬送人員	103	3.7				6			18			76	3
	不搬送件数	10	0.4										7	3
3月	出場件数	118	3.8	2			9	1	1	20		1	76	8
	搬送人員	108	3.5				8	1	1	19		1	73	5
	不搬送件数	10	0.3	2			1			1			3	3
4月	出場件数	105	3.5				5			22		2	74	2
	搬送人員	102	3.4				5			21		2	72	2
	不搬送件数	4	0.1							1			3	
5月	出場件数	68	2.2				3			9		2	50	4
	搬送人員	62	2.0				3			9		2	46	2
	不搬送件数	6	0.2										4	2
6月	出場件数	114	3.8	2		1	7			18	1	1	79	5
	搬送人員	106	3.5				7			18	1	1	75	4
	不搬送件数	8	0.3	2		1							4	1
7月	出場件数	128	4.1	2			5	1		21		3	93	3
	搬送人員	114	3.7				5	1		21		2	83	2
	不搬送件数	14	0.5	2								1	10	1
8月	出場件数	132	4.3	2			7	3		21		1	91	7
	搬送人員	125	4.0				10	3		20			85	7
	不搬送件数	11	0.4	2						1		1	7	
9月	出場件数	107	3.5				5	1	3	19	2	1	72	4
	搬送人員	98	3.2				4		3	17	2	1	69	2
	不搬送件数	9	0.3				1	1		2			3	2
10月	出場件数	99	3.2	2			5	1	1	20			67	3
	搬送人員	87	2.8	1			5	1	1	20			57	2
	不搬送件数	12	0.4	1									10	1
11月	出場件数	102	3.4				7			28			64	2
	搬送人員	93	3.1				6			28			56	2
	不搬送件数	9	0.3				1						8	
12月	出場件数	112	3.6	2			4	1		21			78	6
	搬送人員	91	2.9				4	1		20			62	4
	不搬送件数	21	0.7	2						1			16	2

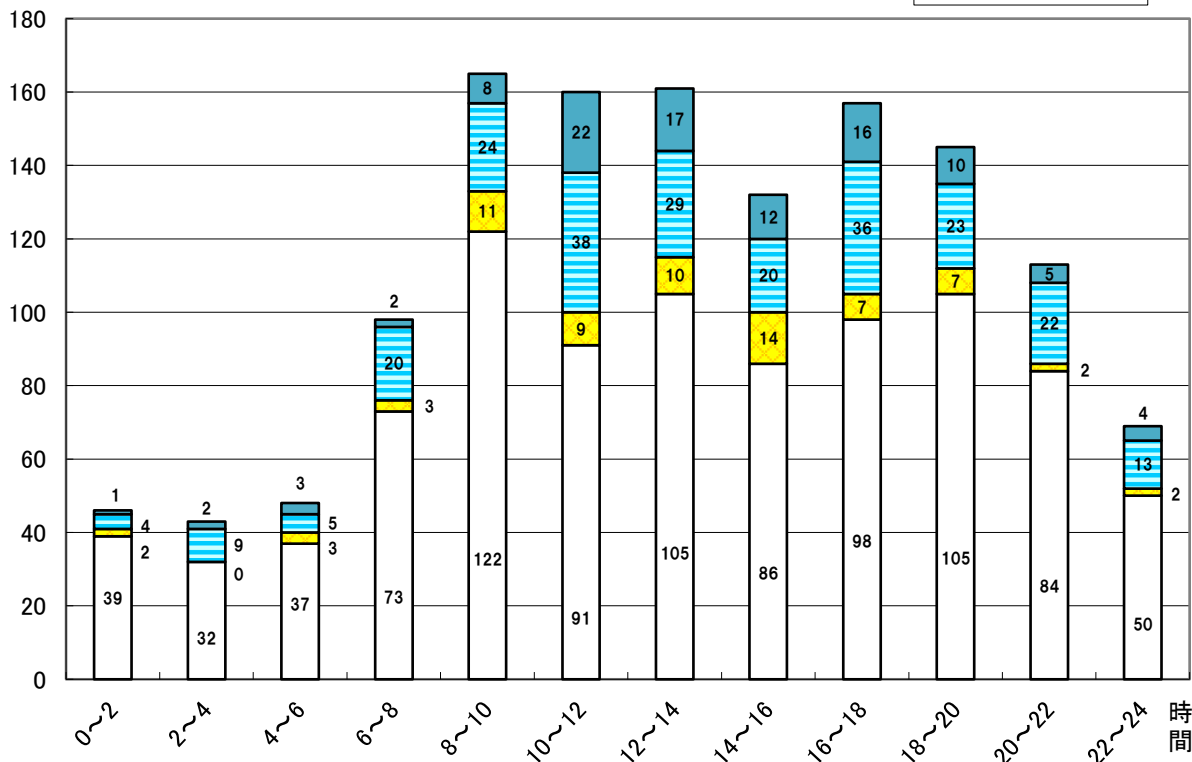
▼曜日別救急発生状況▼

(令和2年中)

曜日別 事故別	合計	火災 事故	自然 災害	水難 事故	交通 事故	労働 災害	運動 競技	一般 負傷	加害 事故	自損 行為	急病	その他
合計	1,337	12		1	70	8	6	243	4	13	922	58
月	218	1			13	1		37		1	152	13
火	206	1			15	1	1	31	1	1	143	12
水	191	2		1	5	2	1	32	2	1	136	9
木	161				10			28		1	116	6
金	191	2			7	3	1	46	1	2	117	12
土	187	3			13	1	3	36		3	123	5
日	183	3			7			33		4	135	1

▼時間別救急発生状況▼

件数



▼事故種別不搬送件数▼

(令和2年中)

種別 \ 理由	合計	緊な急 性し	傷な 病者し	拒 否	酩 酊	死 亡	現 場 処 置	誤 い た ず 報 ら	そ の 他
合計	120	6	15	10	1	20	63	4	1
急病	78	3		5	1	18	51		
交通事故	3	1					2		
一般負傷	8			4			4		
上記以外	31	2	15	1		2	6	4	1

▼地区別出場件数▼

(令和2年中)

地区	合計	二宮	山西	中里	百合が丘	一色	富士見が丘	緑が丘	川匂	松根	その他
件数	1,337	391	229	171	231	72	117	53	39	8	26

▼覚知別件数▼

(令和2年中)

種別	合計	専用(119)	加入電話	駆け込み	携帯(転送)	シルバー通報	その他
件数	1,337	1,223	98	4	2	3	7

▼所要時間別出場件数と搬送人員▼

(令和2年中)

時間経過 事故種別	合計 件数	現場到着所要時間(覚知から現場到着)					病院収容時間(覚知から病院到着)				
		0分 ～ 3分	3分 ～ 5分	5分 ～ 10分	10分 ～ 20分	20分 以上	搬 送 人 員 合 計	0分 ～ 20分	20分 ～ 30分	30分 ～ 60分	60分 以上
計	1,337	4	89	1,121	117	6	1,223		190	989	44
急病	922	3	56	784	76	3	846		127	692	27
交通事故	70		9	55	5	1	70		11	56	3
一般負傷	243		12	211	20		236		32	192	12
上記以外	102	1	12	71	16	2	71		20	49	2

▼傷病程度と年齢別搬送人員▼

(令和2年中)

事故種別	年 齢 区 分						傷 病 程 度				
	合 計	新 生 児	乳 幼 児	少 年	成 人	高 齢 者	合 計	死 亡	重 症	中 等 症	軽 症
合 計	1,223		34	36	294	859	1,223	29	111	633	450
急 病	846		15	21	198	612	846	24	94	464	264
交通事故	70		3	7	40	20	70		1	26	43
一般負傷	236		15	2	33	186	236	1	8	103	124
上記以外	71		1	6	23	41	71	4	8	40	19

「年齢区分の内容」

区 分	内 容
新生児	生後0日～28日未満
乳幼児	生後28日～満7才未満
少年	満7才～満18才未満
成人	満18才～65才未満
高齢者	満65才以上

「傷病程度の内容」

程 度	内 容
死 亡	初診時に死亡確認
重 症	入院3週間以上又は重篤
中等症	入院を要し重症に至らない
軽 症	入院を必要としない

▼応急処置等実施状況▼

(令和2年中)

区 分	事故種別	急 病	交通事故	一般負傷	左記以外	計
応 急 処 置 等 対 象 人 員		846	70	236	71	1,223
応 急 処 置 件 数 ※		2,891	251	786	236	4,164
	止血(止血帯等)	2	6	35		43
	固定(副子等・頸部・全身)	5	47	87	3	142
	人工呼吸	24			2	26
	心肺蘇生	28			4	32
	酸素吸入	177	2	16	15	210
	気道確保	37		3	4	44
	保温	8	1	1	2	12
	被 覆	3	20	56	1	80
	在宅療法継続	1				1
	ショックパンツによる血圧保持					
	除細動 (包括的)	3				3
	静脈路確保(CPA前)	9			1	10
	静脈路確保(CPA後)	21			3	24
	アドレナリン投与	19			2	21
	血糖測定	2				2
	ブドウ糖投与	1				1
	その他の応急処置	27	1	3	2	33
	血 圧 測 定	789	66	225	65	1,145
	聴診器による聴取	357	27	84	28	496
	血中酸素飽和度の測定	770	62	221	65	1,118
	心 電 図	608	19	55	39	721

※同一傷病者に複数の処置を行うことがあるため、対象人員とは一致しません。

▼応急手当等講習会の実施状況▼

令和2年度の応急手当等の講習会は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から開催を見送りました。

令和2年度までの普通救命講習累計受講者数は8,373名、上級救命講習累計受講者数は399名です。

応急手当の普及のため、二宮町ホームページで救命処置の手順や応急手当方法の紹介、事業所や団体からの応急手当普及活動に関する相談を受け付けています。また、自動体外式除細動器(AED)も町内の公共施設をはじめ、一般企業や事業所等に設置されており、設置場所については二宮町のホームページで公表しています。

(平成7年度～令和2年度)

区分 年	普通救命講習		上級救命講習		その他の講習	
	回数	受講者数	回数	受講者数	回数	受講者数
平成7年度	3	54	0	0	0	0
平成8年度	13	204	4	76	0	0
平成9年度	14	284	3	28	0	0
平成10年度	17	183	2	45	0	0
平成11年度	18	193	4	62	0	0
平成12年度	11	128	1	14	14	216
平成13年度	20	221	1	10	11	383
平成14年度	16	203	0	0	12	197
平成15年度	19	288	3	25	4	62
平成16年度	11	196	1	13	8	360
平成17年度	24	479	0	0	3	54
平成18年度	19	330	0	0	6	184
平成19年度	22	343	0	0	7	171
平成20年度	26	384	0	0	2	55
平成21年度	36	481	0	0	3	77
平成22年度	28	431	0	0	2	42
平成23年度	25	361	0	0	5	79
平成24年度	40	593	1	17	3	43
平成25年度	35	489	2	26	0	0
平成26年度	33	436	2	14	1	10
平成27年度	42	482	2	15	1	10
平成28年度	36	415	2	12	0	0
平成29年度	28	379	2	14	0	0
平成30年度	28	463	2	15	1	18
平成31年・令和元年度	24	353	2	13	9	175
令和2年度	0	0	0	0	0	0
合計	588	8,373	34	399	92	2,136

※受講者数には再受講者を含む。

※「その他の講習」とは、受講団体の要望や受講時間を短縮した応急手当講習で、普通救命講習・上級救命講習に当てはまらないもの。

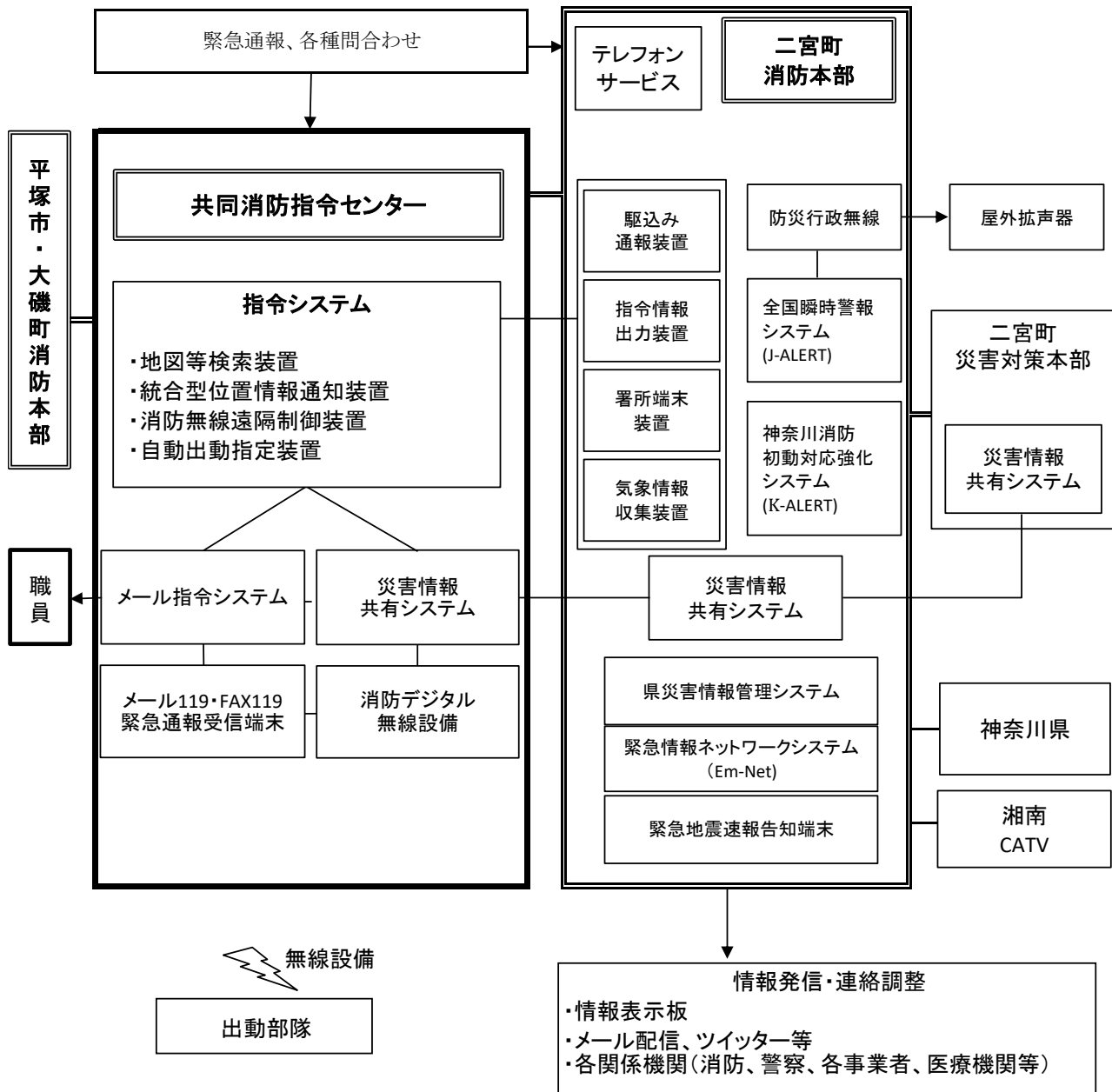
◇ 通信指令業務 ◇

(令和3年4月1日現在)

平成29年4月より平塚市・大磯町・二宮町の1市2町で共同消防指令センターが整備され、運用されています。指令センターは消防活動の要であり、各市町の消防職員が24時間体制で勤務し、情報が集約される指令台を中心に119番(火災報知専用電話)のほか数多くの通信情報システムを運用し、災害出動指令や無線交信などに従事しています。

このシステムにて各市町で発生した災害情報を一元管理することで、相互に連携を図り、円滑な出動部隊の編制や出動指令を行うと共に必要な情報を共有できるため、災害対応体制が充実し、より迅速・的確な活動が可能となりました。

▼通信系統図▼



◇ 災害出動体制 ◇

各種災害通報は、火災報知専用電話(119番)等を通じて、平成29年4月1日から運用を開始した「平塚市・大磯町・二宮町共同消防指令センター」で受信します。通報を受けた指令員は、二宮町消防署出動計画に準じて隊員に出動指令をかけます。また、災害の状況に応じて消防団が召集されます。

消防本部・消防署

水槽付消防ポンプ自動車	消防ポンプ(水槽付)自動車	救助工作車	積載車	救急自動車1	救急自動車2	指令車	広報車	可搬ポンプ
-------------	---------------	-------	-----	--------	--------	-----	-----	-------

消防団

本部	第1分団	第2分団	第3分団	第4分団	第5分団
団本部車	消防ポンプ自動車 可搬ポンプ	小型動力ポンプ付積載車 可搬ポンプ	消防ポンプ自動車 可搬ポンプ	消防ポンプ自動車 可搬ポンプ	消防ポンプ自動車 可搬ポンプ

※令和3年4月1日現在の出動体制

▼救助出動体制▼

火災や交通事故、労働災害等の複雑化する都市災害から人命を守るため、救助工作車(平成18年度)を配備し、あらゆる災害に対処できるように訓練に臨んでいます。

救助工作車資機材

資機材名	数量	資機材名	数量	資機材名	数量
クレーン装置	1	空気鋸	1	救命浮環	1
ウィンチ装置	1	自動車ガラス切断・破砕機	1	化学防護服	5
照明装置	1	可搬ウィンチ	1	耐電衣	2
超高圧消火装置	1	救命索発射銃	1	防毒マスク	5
大型油圧救助器具	3	送排風機	1	救助用縛帯	2
簡易画像探索器	1	発動発電機	1	携帯警報器	5
マット型空気シヤッキ	1	バスケット型担架	1	マルチガス測定器	1
マンホール救助器具	1	平型担架	1	空間線量計	1
エンジンカッター	1	全脊柱固定器具	1	個人線量計	5
チェーンソー	1	山岳救助器具	1	搬送器具(ハーフスケッド)	1
コンクリート破壊器具(携帯用)	1	救命胴衣	3	搬送器具(スケッド)	1
コンクリート破壊器具	1				

▼水防(自然災害)出動と体制 ▼

二宮町は、比較的大きな河川がなく、近年では水害による大規模な被害を受けておりませんが、集中豪雨や台風の際には河川の氾濫・道路冠水・土砂災害等の被害が発生する恐れがあります。このため、降雨時は雨量の把握に努め、早期に警戒体制を強化しています。

(令和2年中)

気象状況	回数	活動内容
大雨警報	5	情報収集等及び町内巡回
洪水警報	1	情報収集等及び町内巡回

水防資材(消防本部管理分)

(令和3年4月1日現在)

品名	数量	品名	数量	品名	数量
一輪車	1台	スコップ	76丁	土のう袋	7,600枚
水中ポンプ	1基	土のう用止め杭	600本	緊急用土のう袋	260枚
のこぎり	7丁	防水シート	560枚	ロープ	〆
カケヤ	19丁	大ハンマー	6丁		

▼緊急消防援助隊▼

緊急消防援助隊は、消防組織法第44条の規定に基づき、災害等による非常事態の場合に消防の応援等を行うことを任務としています。東南海地震等の大規模災害への素早い対応を見据え、常日頃から派遣職員の人選や物資の確保及び資材の点検をして有事の際の対応に備えています。

▼消防相互応援協定▼

消防相互応援協定は、消防組織法第39条の規定に基づき、大災害等が発生した際に相互の消防力を補い、被害の軽減を図っています。この協定は、全国、県内、隣接市町などで締結され、航空応援・特別応援・通常応援等に区分されています。

《応援・受援状況》

(令和2年中)

応援消防本部		合計				小田原市消防本部				大磯町消防本部				その他			
区分		応援		受援		応援		受援		応援		受援		応援		受援	
出場回数	種別	特別	通常	特別	通常	特別	通常	特別	通常	特別	通常	特別	通常	特別	通常	特別	通常
		火災・救助		5		11		1		4		4		6			
	救急・救急支援	19	3	17	3		2	1	1	19	1	16	2				

被災市町からの要請が無い場合でも、互いに協力し出場する区域は次のとおりです。

《通常応援出場区域》

二宮町消防本部	平塚市消防本部
平塚市のうち土屋	二宮町のうち一色
二宮町消防本部	大磯町消防本部
大磯町全域	二宮町全域

二宮町消防本部	小田原市消防本部
小田原市のうち小竹(中村川以東)・川匂・山西・東ヶ丘・中村原(県道中井羽根尾線以東)・羽根尾(東海道本線以南)・中井町井ノ口(県道平塚松田線以南)	二宮町のうち一色・百合が丘一丁目～三丁目・川匂・山西(梅沢川及び町道170号線以西)

《通常応援出場区域(自動車専用道路受持区域)》

二宮町消防本部	大磯町消防本部
小田原・厚木道路のうち、二宮インターから大磯インターまでの区間の上り線。 西湘バイパスのうち二宮インターから大磯西インターまでの区間の上り線。	小田原・厚木道路のうち、大磯インターから二宮インターまでの区間の下り線。 西湘バイパスのうち大磯西インターから二宮インターまでの区間の下り線。

二宮町消防本部	小田原市消防本部
小田原・厚木道路のうち、二宮インターから小田原料金所までの区間の下り線。 西湘バイパスのうち二宮インターから国府津インターまでの区間の下り線。	小田原・厚木道路のうち、小田原料金所から二宮インターまでの区間の上り線。 西湘バイパスのうち国府津インターから二宮インターまでの区間の上り線。

◇ 消防水利 ◇

二宮町内の消防水利は、水資源の関係から大部分が消火栓で充足されていますが、市街地周辺部は水道管口径が細く、更なる消防水利の確保が重要となります。

消防水利の充実と震災時の対応のため、防火水槽の設置などにより水利不足の解消に努めています。

▼ 消防水利の現勢調 ▼

(令和3年4月1日現在)

種別 区分	水利 合計	消 火 栓			防 火 水 槽			そ の 他	
		小計	公設	私設	小計	公設	私設	プール	堀池等
基準数	409								
適合水利	368	309	308	1	59	53(耐震17)	6(耐震5)		
充足率	90%								
現有数	454	380	378	2	74	68	6		

※適合水利とは、消防水利の基準に適合した施設数

消火栓は、直径150ミリメートル以上の管口径に取り付けられたものがふさわしく、また防火水槽についても常に40トン以上貯水されたものが消防水利として適しています。

※現有数とは、消防水利の基準にかかわらず全部の施設数

※公設防火水槽72基のうち2基が飲料水兼用耐震性貯水槽

◇ 気象 ◇

気象観測による情報は、火災の予防や消防活動全般に大切であるとともに、風水害などの予防や被害軽減のために重要な役割を果たしています。

火災は、気象条件と密接な関係があるため、気象条件によっては火災の規模や出火率も左右されます。

また、各種災害では、常に気象条件を考慮した活動が要求されるため365日、気象観測装置による観測を実施しています。

▼月別気象状況▼

(令和2年中)

種別 月別	風速・風向(m/s)			気温(℃)			湿度(%)			気圧(hpa) (標高 31m)			降雨 日数	降雨 量 (mm)
	平均	最大	最多 風向	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低		
1月	1.2	13.7	西	7.3	18.5	-1.1	74.5	98.0	24.7	1013.4	1028.1	992.3	9	97.0
2月	1.2	14.0	西	8.2	20.1	-1.2	64.7	98.3	11.3	1015.4	1033.8	994.8	8	43.0
3月	1.5	16.8	南東	11.0	23.2	0.1	71.1	98.3	12.5	1010.6	1022.1	988.6	12	168.5
4月	1.5	16.5	南東	13.1	22.8	3.9	71.6	98.3	16.6	1009.6	1023.4	985.2	10	210.0
5月	1.2	15.2	南東	19.4	29.2	9.2	79.4	98.3	21.9	1008.4	1020.0	992.9	7	74.5
6月	1.1	17.0	南東	23.2	31.0	17.0	86.7	98.3	40.2	1004.7	1016.9	994.8	13	200.5
7月	1.1	19.4	南東	24.4	31.3	18.3	92.3	98.3	49.1	1006.3	1014.3	994.4	23	451.5
8月	1.0	10.7	南東	28.4	36.0	22.6	85.3	98.0	45.8	1008.4	1014.8	1002.8	5	5.0
9月	1.2	17.3	北	24.5	34.1	15.8	86.7	98.6	43.3	1009.4	1015.1	999.2	17	101.0
10月	1.1	14.4	北	17.6	27.3	5.4	81.4	98.6	31.6	1014.1	1025.7	996.1	9	186.5
11月	1.1	17.6	西南西	14.1	24.3	4.7	77.6	98.3	30.0	1017.1	1032.1	1001.4	4	10.0
12月	1.0	13.4	西	7.8	16.9	-2.2	72.1	98.6	15.2	1013.6	1025.6	982.7	3	12.0
年	1.2	19.4	南東	16.6	36.0	-2.2	78.6	98.6	11.3	1010.9	1033.8	982.7	120	1559.5

▼気象予報等発表状況調(横浜地方気象台発表)▼

(令和2年中)

種 別		月 別												
		合計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
特別警報	大雨													
	暴風													
	高潮													
	波浪													
	暴風雪													
	大雪													
警報	大雨	5				1			3			1		
	洪水	1				1								
	波浪													
	暴風													
	高潮													
	大雪													
注意報	大雨	23	1		2	4	1	4	6		3	2		
	洪水	3				2			1					
	強風	93	11	9	10	14	7	8	4	4	5	6	8	7
	波浪	22	3	3	3	3	1	3	1		2	2		1
	高潮													
	雷	79	3	3	4	9	6	10	13	15	12	2	1	1
	乾燥	19	2	4	5	2	1					1	2	2
	濃霧	19	1	2	1	1	5	3	2	3			1	
	低温	1		1										
	大雪													
	着雪													
	風雪	1	1											
	霜	3				3								
情報	高温注意情報	17								15	2			
	土砂災害警戒情報	2							2					

▼過去5年間の気象▼

年 区分	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年・令和元年	令和2年
平均風速(m/s)	1.4	1.2	1.2	1.2	1.2
最多風向	南南東	南東	西南西	南東	南東
降水量(mm)	1740.5	1477.5	1816.0	1816.5	1559.5
平均気温(℃)	16.3	15.6	16.7	16.4	16.6
平均湿度(%)	70.6	72.2	74.5	76.1	78.6
平均気圧(hpa)	1012.0	1010.2	1011.1	1011.0	1010.9

二 宮 町 消 防 年 報

令和3年8月 発行

編集発行 二宮町消防本部

〒259-0131 神奈川県中郡二宮町中里711-1
TEL(0463)72-0015(代)
FAX(0463)72-0117